

メッセージ

「オスプレイを東京・横田基地に配備させない 11・23大集会」にご参加の皆様には連帯のメッセージをお送りします。

私は、7月10日の参議院選挙において「オール沖縄」の御支持・御支援をいただき、沖縄選挙区で初当選することができました。国会内では糸数慶子議員と参議院会派「沖縄の風」を結成し、沖縄や全国の課題に取り組んでいく決意です。

私は沖縄県・宜野湾市の出身です。7年半にわたる宜野湾市長としての経験を経て、退任後も一貫して米海兵隊・普天間基地の撤去と沖縄県内の新基地建設反対に取り組んできました。

横田における米軍CV-22の配備は政治的問題であると同時に、住民のいのちと暮らしの問題です。宜野湾市では早朝6時過ぎから夜間22時にかけて、「パチンコ店内と同じレベル」といわれる90デシベルを超える騒音を伴って、オスプレイの訓練飛行が行われています。多くの市民の暮らし、特に子どもたちの育ちや学びに深刻な悪影響が生じています。住民は、騒音や低周波振動だけでなく、住宅地上空の低空飛行訓練によって、墜落による生命の危機と隣り合わせの暮らしを強要されています。

先日も那覇地裁で普天間基地爆音訴訟の判決がありました。裁判所は、被害と金銭賠償は認めたものの、飛行の差し止めは「第三者行為論」に依拠して認めませんでした。住民が静かで安心・安全な暮らしを取り戻したいという切実な願いは聞き入れられることはありませんでした。

本土へのオスプレイ配備は「沖縄の負担軽減」にはなりません。現在も多くの「外来機」が、「一体運用」や「訓練環境」を口実に沖縄に本土から飛来して訓練を続けています。むしろ県民からは、被害と客観的な部隊配置との関連がわかりにくくなっています。数字上の部隊配置は減っているのに、被害実態は変わらないか、より深刻化しているのが現状です。

現在、沖縄では、県民の民意と地方自治を圧殺し、辺野古、高江での新基地建設が進められようとしています。しかし県民は、96年の米軍再編合意から20年にわたり、まさに「島ぐるみ」で抵抗しています。みなさんぜひ、沖縄のたたかいいいにご注目と、ご支援をお願いいたします。私たちが「オスプレイを東京・横田基地に配備させない」みなさんと連帯して最後までたたかいていきます。

ともにがんばりましょう。

2016年 11月23日 参議院議員 伊波洋一